

## 夏秋ギクの電照栽培における有望品種と作型

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

### 研究のねらい

近年、夏咲きギクの開花に対する日長反応についての研究が進み、夏の自然日長よりさらに日長を長くすることにより開花しない品種があることが明かになり、これらは夏秋ギクとして分類されている。

夏秋ギクの電照による開花調節によって同一品種の長期出荷を図るため、県内の夏咲きの主要品種における電照抑制効果を調査し、電照栽培に有望な品種の8月出荷及び9月出荷における作型について検討した。

### 研究の成果

#### 1. 電照方法

電照は深夜4時間の光中断を行い、育苗段階から実施する。照度は50 lux(75w電球1灯/10㎡)以上を確保する。

#### 2. 品種の選定

電照抑制栽培に適して、草姿、切花品質が優れる品種として、「赤道」(赤)、「広島天寿」(黄)、「志染の幸」(ピンク)、「日扇」(赤)、「鈴香」(白)、「金竜」(黄)がある。

#### 3. 有望品種の作型

十分な切花長を得るためには、品種により摘心から45～50日の電照期間が必要である。消灯から開花までの到花日数は、46～57日と品種により異なるが、8月出荷と9月出荷では大差はない。定植日は目標開花日及び消灯からの到花日数から判断して決定する。

電照は育苗段階から

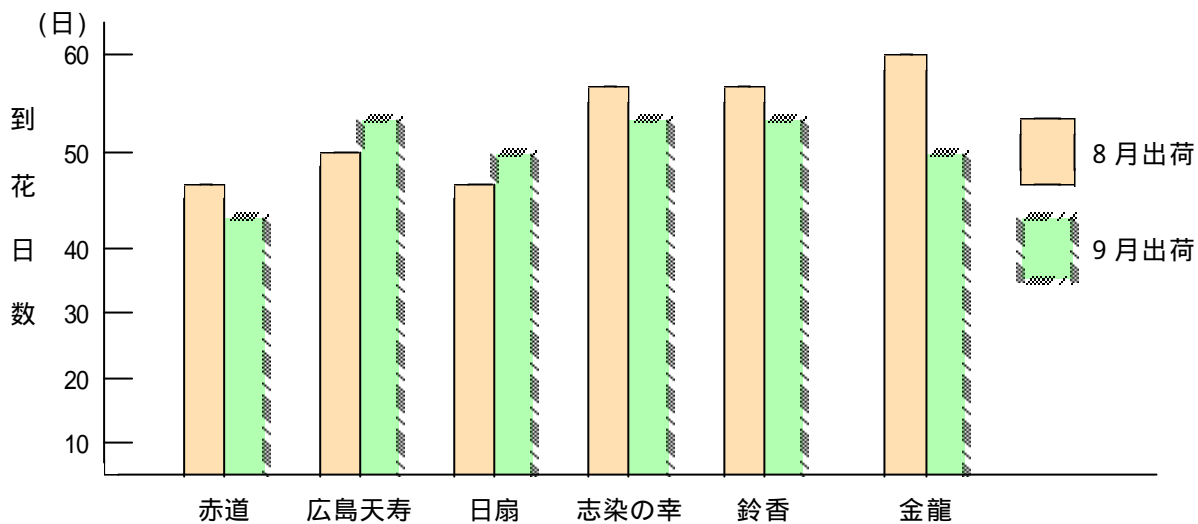
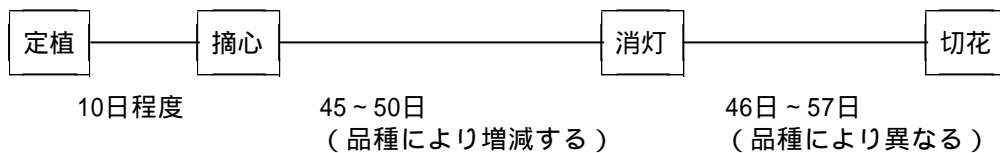


図1 電照抑制栽培における作型別、品種別の消灯からの到花日数

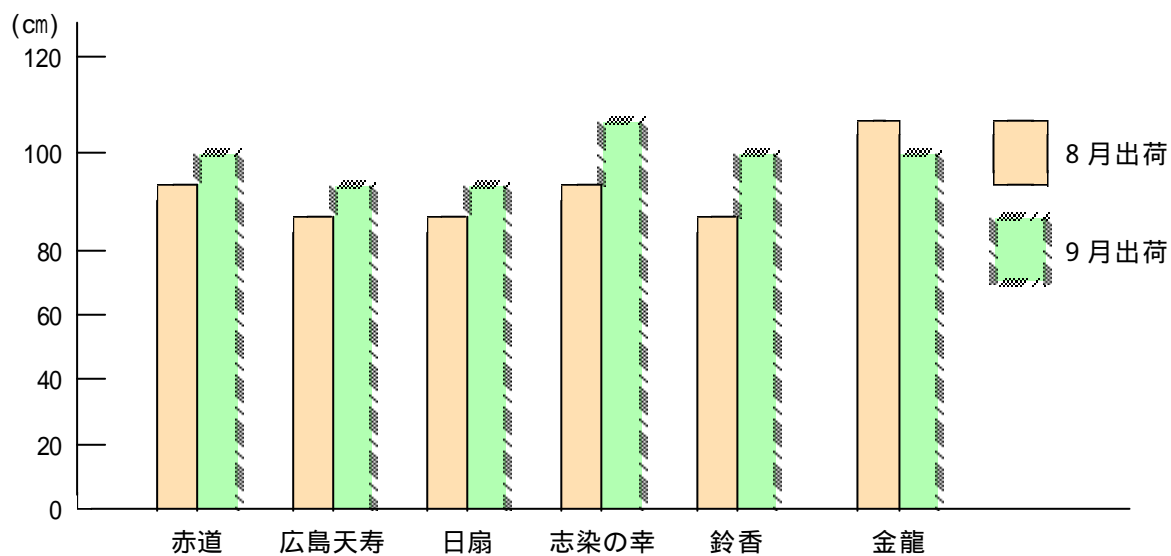


図2 電照抑制栽培における作型別、品種別の切花長

摘心から消灯までの電照期間は50日間